

藤沢市生物多様性地域戦略(改定・素案) に関するパブリックコメントの実施結果について

「藤沢市生物多様性地域戦略(改定・素案)」に関するパブリックコメントについて、みなさまから、ご提出いただいたご意見をとりとめたことから、本市の考え方を付して、公表いたします。

この度は、ご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

※個別の回答は行っていませんのでご了承ください。

1 パブリックコメントの実施概要

(1)実施期間

2025年(令和7年)12月 10 日から2026年(令和8年)1月 13 日まで

(2)意見提出者及び件数

3人 11件

2 提出された意見等の概要と市の考え方

裏面のとおり

No.	該当箇所	ご意見要旨	ご意見に対する市の考え方
1	全体	バイオマス施設を造って、藤沢発の発電所を造って頂きたいです。	いただいたご意見については、環境部門と情報共有させていただきます。
2	全体	海藻の育成の支援は賛成です。新技術などを活用し、海の豊かな藤沢にして頂きたいです。	本戦略では、藻場などを含む海について、生態系サービス（調整サービス・基盤サービス）などの観点から重要である旨を位置づけています。 なお、いただいたご意見については、農業水産部門と情報共有させていただきます。
3	全体	植物が好きなので、森林支援活動の広報がもっと活発であれば、参加しやすくなると思います。	本戦略の取組に関する情報発信は重要であると捉えていることから、「施策⑥：生物多様性に関する情報発信（P70）」を位置づけています。 なお、いただいたご意見については、今後の施策展開の参考とさせていただきます。
4	全体	藤沢産の農作物もいつも買っていて、農業支援をさせて頂いています。	P75に「地域産品の振興、地産地消の促進」を位置づけており、引き続き農業部門と連携を図りながら地産地消の取組を進めていきます。
5	全体	里山をこれからも維持していくには、ボランティアの力だけでは時間も人数もお金も足りず、やりきれないのが現状です。 ①川名緑地を生物多様性が高い状態で維持するためには、里山管理のプロが生物多様性サテライトセンターに常駐することが望ましいと思います。 ②里山を体験学習できる野外博物館のようにして、教育、生物多様性の維持、防災・減災、潤いのある生活の構築に役立てるように、ボランティアとともに、きめ細かく維持管理していくのが理想かと思います。 ③藤沢市が発注した大規模業者が年に数回、大人数で草刈りをする状態だと、地表部分まで刈り込まれてしまい、在来種で貴重な植物等がなくなってしまっています。きめ細かい維持管理のモデルケースを設定していくことが必要だと思います。	①重点プログラムの1つに川名清水谷戸周辺における生物多様性サテライトセンター機能の配置（P78）を位置づけていますが、どのような形態になるかなどは、今後の施策展開のなかで検討していきたいと考えています。 ②川名清水谷戸は、「みどりと生物多様性の普及啓発拠点（P82）」に位置づけており、緑地保全とともに様々な役割を有しています。きめ細やかな維持管理においては、市民活動団体との連携は不可欠であることから、引き続き連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています。 ③生物多様性が高いエリアでの草刈り業務の仕様等については、今後の施策展開のなかで検討していきたいと考えています。
6	全体	生物多様性を評価するための視点として、「元からある自然」と「回復させた、退避させた」を把握できる仕組みを構築することが今後、必要だと考えます。	いただいたご意見については、今後の施策展開の参考とさせていただきます。
7	全体	全体として、生物多様性確保の大前提に大地、地下環境が大きく関わっているという視点がみえません。土中の環境が悪くなればどんなに努力しても悪くなります。この視点を是非加えてください。	P2（1 生物多様性とは）において、土壌を含めた自然のサイクルに触れており、生物多様性という基盤の重要性を位置づけています。 また、P66（カーボンニュートラルに貢献するCO2吸収源対策としての樹林地再生）において、健全な土壌形成を促す視点を位置づけています。

8	P49	<p>「緑地の雨水浸透・貯留による河川の洪水緩和」とありますが、たびたび起こる線状降水帯やゲリラ降雨などの現象を考慮していません。少なくとも緑地の雨水浸透機能の現状検証を行い、雨水浸透・貯留機能の向上を考えなければいけない時代に入ったと思います。「雨水浸透・貯留機能の機能改善、向上」といった文言が必要だと思います。</p>	<p>本項目は、あくまで「(2)暮らしに息づく生きものの恵み(生態系サービス)の状況」を記載しているものであるため、素案のとおりとさせていただきます。なお、P68(施策④:生物多様性に配慮したインフラ整備の推進)に「雨水貯留浸透施設の設置の促進や雨水の流出を抑制する土地利用誘導の促進など、水害に強いまちづくりの推進」を位置づけているため、いただいたご意見については、今後の施策展開の参考とさせていただきます。</p>
9	P49	<p>「ミツバチなどによる花粉媒介」とありますが、現状、農作業や保全作業を行っている時にミツバチの姿を見なくなりました。藤沢市だけではどうしようもないのかもしれませんが、こういった視点も認識して欲しいです。ミツバチをスズメバチと同じに考え、とても危険であり殺した方が良いという言葉も聞くようになりました。生物多様性に配慮するのであればこういった点にも補足コメントが欲しいです。</p>	<p>一般的にミツバチはスズメバチと性質が異なることは広く知られていると捉えていますが、いただいたご意見の視点を認識しつつ、今後の施策展開に努めていきます。</p>
10	P57	<p>①「状態目標 2030:事業活動と生物多様性とのつながりを構築している」ですが、生物多様性を高めるための大事な要素の一つに、市や県などの発注仕様があります。影響力も大きいので公共団体の関わりを入れることで、効果を担保してください。 ②生物多様性を高めるための保全作業が実は生物多様性を阻害している場合を目にします。公園などの管理において「見た目」から草本類を地際から刈り込むことが主流となっています。管理手法の見直し、体系化や伝承が必要です。少なくとも「高刈り」といった根を枯らさない手法は必須です。こういった管理におけるリスクの視点が本戦略から読み取れません。</p>	<p>①「状態目標 2030:事業活動と生物多様性とのつながりを構築している」に紐づく「基本方針Ⅲ」の「施策の方向性」は「農畜水産業・商工業・観光業」が主であるため、本項目への位置付けは馴染まないものと考えます。なお、行政の役割については、P17に位置づけています。 ②いただいたご意見を踏まえ、生物多様性に配慮した草地の管理の視点をP66(施策②:緑の確保と緑地・水辺環境の質の向上)に記載させていただきます。</p>
11	P68	<p>「生物多様性に配慮したインフラ整備の推進」について、とても良いことですが、グリーンインフラを進めるといわれる雑草(草本類)の繁茂現象が起きてきます。雑草や虫などを嫌がる人がいることを念頭に、戦略の方向に導く施策の書き方をしないと、戦略の取組が進んでも逆戻りになると思います。</p>	<p>本戦略の改定にあたっては、生物多様性に興味のない方を含め、様々な考え方をもちた市民等がいることを念頭に取り組んでいます。本項目に関わらず、様々な受け止め方があることを踏まえ、生物多様性に興味をもってもらえるような章立てに再構成しています。</p>